

話し言葉をまなぶ知恵

広島工業大学名誉教授
中山 勝矢



(写真1) 人形を紐で縦に吊るした型破りの雛飾り。
「人形の数と多様な姿は目を引くし、
同様のケースが並ぶのは壮観である。
執筆者撮影」



(写真2) 幼稚園での紙芝居使用の現状
「目白平和幼稚園での紙芝居を使った
保育の実例。 執筆者作製」



(写真3) 昭和初期に現れた街頭紙芝居の例。
「自転車に小舞台が取り付けられている。
執筆者作製」

春3月は、すぐに雛祭りとなります。古くは「上巳の節句」といったようですが、江戸中期以降は「桃の節句」「雛祭り」と呼ばれ、主役は王朝風の人形になりました。

ところが先日、東京新宿の京王プラザホテルのレストランで見た雛飾りは壇に並べられた人形ではなく、様々な人形を紐で縦に吊るした型破りのものでした。(写真1)

知人は北陸地方や信州にあるといます。全国を訪ねたらいろいろと変わった雛飾りに出会えそうな気になりました。一つのことで工夫により土地柄が出るのは楽しいことです。

●わが国で生まれた紙芝居

明治以前にも寺子屋で文字教育はありましたが、明治になり近代化の国策として全国民に対し教科書を使う教育が始まりました。文字を習う前、内容の説明は大変だったのです。

海外を知る人が幼稚園や保育園を試みました。やはり文字教育以前の子どもでは苦勞が多く、目の前の子どもたちに絵本を開いて見せ、筋を聞かせることに終始したようです。

100年以上たった今日でも、やはり紙芝居は幼稚園や保育園で日常的に使われています。写真は「おべんと」の題で様々なことを子どもに説明をしている紙芝居です。(写真2)

まだテレビも映画もない時代です。紙芝居はその状況を乗り越える工夫でしたが、ルーツはわが国で、江戸時代の幻灯と明治大正期の紙人形芝居に行きつくとあります。

つまり、幻灯や紙人形芝居を見せながら口頭で話を進めるのに要る高度な話術は、落語や浄瑠璃の形でわが国では早くから普及していて、それが活用されたというわけです。

昭和初期に、街頭紙芝居とでも言えそうな商売が路地裏に現れました。自転車の荷台に積みこんだ小舞台に説明者は絵を差し込み、弁舌さわやかに話を進めるのでした。(写真3)

この大道芸人的な演者は、先ず来たことを知らせて子どもを集め、割りばしに水飴を巻きつけて売っていました。値段は多分、1本が1、2銭程度ではなかったかと思います。

● 言葉を学ぶ場所

紙芝居を街頭で演じる人は、ただテキストを読んでいたのではありません。音の出るものは持たず、抑揚をつけた声が武器でした。でもその語りは、聞く人を興奮させたのです。

子どもたちは飴を舐めながら、自然と東京弁の調子や言い回しを身につけたのです。これは遠方から出て来て東京に住み、家庭を持った人が子どもに教えられないことでした。

様々な技術を身につけて社会に出たとしても、やりとりのわずかなニュアンスの違いがビジネスの障害になります。紙芝居は、スムーズに世渡りする知識を教えてくれたのです。

早く来て飴を舐めている子は小舞台の傍に立ち、その日は小遣いがなく、飴が買えなかった子は少し離れても一緒に話を聞いていたものです。

(写真4)

いま住んでいる東京の府中市にある博物館で、当時の子どもたちがたむろした街頭紙芝居の道具一式を見つけたとき、懐かしさで思わず足を止めてしまいました。

(写真5)

母の姉、つまり伯母の連れ合いは上州出身の人で、若いときから米を扱う店で働いていました。それで、米の品質を見抜く能力は優れていると聞いていました。

大正末期の関東大震災後に自立し、現在の文京区千石町で精米から配達まで取り仕切る米屋を営んでいました。その裏手にはお屋敷町があり、一帯がお得意さんでした。

店からお客の勝手口まで、自転車で米を運びます。勝手口に出てきた女中さんから、既に納めた品の評判とクレームを聞いて帰り、次の商品に活かすのが商売のコツでした。

お得意さんの家の女中さんですから、遠回しに指摘することが多く、言葉に堪能でないと聞き洩らしてしまうと、伯父は言っていました。

一日働いて疲れて帰っても、夕飯のあと「寄席に行ってくる」と言って出かける姿をよく目にしました。遊びにきていた私は幼くて、寄席もその意義も全く分かりませんでした。

いま考えると、東京の寄席なら落語でも講談でも江戸前です。そのリズムと言い回しに慣れることは客あしらいに役立つことでした。つまり言葉の勉強をしていたわけです。

声優、役者、歌手など声を使う人は、絶えず喉を鍛えているものです。文筆家なら、優れた言葉の言い回しに関心を持ち、その使い方を考えています。

自らの欠点を意識すれば街頭紙芝居であれ、寄席であれ、学ぶ機会は手近に見つかるものです。街頭紙芝居の意義に気付いた瞬間、未来が広がる思いになりませんか。



(写真4)街頭紙芝居に集まった子どもたち。
「紙芝居が始まり、子どもたちは説明者の熱弁に集中している。執筆者作製」



(写真5)手の込んだつくりの街頭紙芝居。
「府中市の博物館に展示されていた実物。
執筆者作製」